

1 令和5年度学校評価の基本方針

- (1) 本校の学校評価（自己評価）は、文部科学省「学校評価ガイドライン」（平成28年3月改訂）に則して実施し、以下に沿って自己評価報告書の作成と公表を行う。
- ① 令和5年12月に、本校生徒・保護者・教職員（管理職を除く）に対して学校評価アンケートを実施し、それをふまえて令和6年3月に、本校管理職による「学校評価（自己評価）報告書」を作成し、本校生徒・保護者に対して本校ホームページ上で公表する。
 - ② 「学校評価（自己評価）報告書」について、以下の学校関係者から意見等を聴取する。
 - ・令和6年4月 第1回PTA運営委員会において本校PTA役員より
 - ・令和6年5月 第1回学校評議員会において本校学校評議員よりなお、教育学部附属四校園の学校評議員会は、令和6年10月に「令和4年度千葉大学教育学部附属学校園学校評議員会学校評価報告書」を作成し、公表する予定である。
- (2) 本校の学校評価（自己評価）は、中等教育を行う学校としての一般的な評価項目についてとともに、国立大学教員養成系学部附属学校としての社会的使命及び本校の学校教育目標に照らした評価項目を盛り込んだ学校評価として行う。
- (3) 本校の学校評価（自己評価）は、「学校評価ガイドライン」の趣旨の通り、自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図り、その説明責任を果たすことが第一の目的である。そのことによって、保護者等から理解と参画を得て、連携協力による学校づくりを進めることを意図している。さらに、学校設置者である国立大学法人千葉大学によって、その結果に応じた支援や条件整備等の改善措置が講じられ、教育水準の保証・向上が図られることを目的として行う。

2 本校学校評価（自己評価）の実施概要

(1) 学校評価アンケートの実施

- ① 学校評価アンケートは、本校生徒・保護者・教職員を対象として、学習指導・生徒指導・学校運営（教育環境の整備・教育方針の具現化・附属学校としての責務の遂行等）に関する項目について、評価基準は 5…そう思う 4…ややそう思う 3…どちらとも言えない 2…あまりそう思わない 1…そう思わない の5段階での評価を依頼した。令和2年度までは紙でアンケートを実施していたが、令和3年度よりインターネットを利用して電磁的方法で実施した。
- ② 学校評価アンケートの回収率は以下の通りであった（括弧内は前年度）。生徒の回収率が上がったのは、一昨年度より出席者が多かったことによる。保護者については、一昨年度から電磁的方法でアンケートを行ったことにより、引き続き高い回収率となっている。
 - ・生徒… 96.9% (94.5%)
 - ・保護者… 92.6% (93.6%)
 - ・教職員… 100.0% (100.0%)

(2) 学校評価（自己評価）報告書（本書）の作成

- ① 本報告書は本校副校長及び校務室教員が対象者ごとにまとめた原案をもとに、校長の責任において総括した。その際に、学校評価アンケートに反映されていない要素をも含めた、包括的な自己評価となるようにした。
- ② △はマイナスを示す。

3 学校評価アンケートの結果の概要

(1) 生徒アンケート

評価基準は5..そう思う 4..ややそう思う 3..どちらとも言えない 2..あまりそう思わない 1..そう思わない の5段階です。

番号	評価項目	学年	評価					平均	4年度平均	増減
			5	4	3	2	1			
学習指導	1 先生はわかりやすく工夫した、充実した授業をしていると思いますか。	1年生	94	40	8	1	3	4.51	4.59	△ 0.07
		2年生	75	44	16	2	2	4.35	4.50	△ 0.14
		3年生	91	42	11	1	3	4.47	4.55	△ 0.08
		全学年	260	126	35	4	8	4.44	4.54	△ 0.10
	2 あなたは、自ら計画を立て、学校外で適切に学習ができていると思いますか。	1年生	36	64	31	10	5	3.79	3.92	△ 0.13
		2年生	46	46	29	13	5	3.83	3.90	△ 0.07
		3年生	66	48	23	7	4	4.11	3.90	0.21
		全学年	148	158	83	30	14	3.91	3.91	0.00
	3 あなたは、積極的に意見を発表したり、自分で課題を解決したりできていると思いますか。	1年生	35	51	37	15	8	3.62	3.78	△ 0.17
		2年生	47	47	35	6	4	3.91	3.73	0.18
		3年生	58	49	30	8	3	4.02	3.88	0.14
		全学年	140	147	102	29	15	3.85	3.80	0.05
生徒指導	4 先生は一人一人の性格や考え方を大切に、良さを伸ばす指導をしていると思いますか。	1年生	71	49	21	5	0	4.27	4.34	△ 0.07
		2年生	65	45	24	4	1	4.22	4.36	△ 0.15
		3年生	92	37	13	3	3	4.43	4.26	0.17
		全学年	228	131	58	12	4	4.31	4.32	△ 0.02
	5 先生は困った時に親身になって対応していると思いますか。	1年生	72	44	24	3	3	4.23	4.34	△ 0.11
		2年生	68	35	31	4	1	4.19	4.31	△ 0.12
		3年生	95	35	11	4	3	4.45	4.34	0.11
		全学年	235	114	66	11	7	4.29	4.33	△ 0.04
	6 あなたは、ルールやマナーを守り、学年にふさわしい規律や規範意識をもつことができますか。	1年生	70	54	18	2	2	4.29	4.55	△ 0.26
		2年生	87	39	11	1	1	4.51	4.38	0.13
		3年生	100	30	14	3	1	4.52	4.34	0.18
		全学年	257	123	43	6	4	4.44	4.43	0.01
学校運営	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	1年生	72	55	14	4	1	4.32	4.43	△ 0.10
		2年生	63	45	28	2	1	4.20	4.05	0.15
		3年生	71	51	18	5	3	4.23	4.11	0.12
		全学年	206	151	60	11	5	4.25	4.19	0.06
	8 学校は自分が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけてくれていると思いますか。	1年生	91	37	14	2	2	4.46	4.64	△ 0.18
		2年生	81	35	19	1	3	4.37	4.48	△ 0.11
		3年生	100	32	13	1	2	4.53	4.51	0.02
		全学年	272	104	46	4	7	4.45	4.54	△ 0.09
	9 学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色のある活動になじんでいると思いますか。	1年生	83	44	13	3	3	4.38	4.66	△ 0.28
		2年生	90	34	14	1	0	4.53	4.57	△ 0.04
		3年生	103	30	11	1	3	4.55	4.66	△ 0.11
		全学年	276	108	38	5	6	4.49	4.63	△ 0.14
10 本校に入学して良かったと思いますか。	1年生	98	27	14	5	2	4.47	4.62	△ 0.16	
	2年生	94	28	13	1	3	4.50	4.59	△ 0.08	
	3年生	114	19	10	3	2	4.62	4.57	0.05	
	全学年	306	74	37	9	7	4.53	4.59	△ 0.06	

① 学習指導

学習指導に関しては、項目1「先生はわかりやすく工夫した充実した授業をしていると思いますか。」に関しては平均値が4.44となっている。昨年度よりも0.10ポイント低下しているが、この6年間で見れば4.50ポイント前後での小幅な変動が継続しており、例年通りと捉えられる。そのため、授業に関しては、ほとんどの生徒が好意的に捉えられていることが確認できた。しかし、2年生のみ昨年度の1

年時と比較して0.23ポイント低下している。生徒の実態に応じた授業づくりをより進めていく必要があると考えられる。

また、項目2「あなたは、自ら計画を立て、学校外で適切に学習ができていると思いますか。」についても昨年と同程度の値となっている。特に、3年生の値が昨年度の3年生、昨年度の2年生と比べると0.21ポイント向上している。項目3「あなたは、積極的に意見を発表したり、自分で課題を解決したりできていると思いますか。」の項目に関しても昨年度までと同様の値となっている。ただ、どちらも学年を追うごとに数値が上がってはいるものの、1・2年生の平均が4を下回っている。引き続き、生徒がより自立して主体的に学ぶことができるように指導を続けていくことが、これらの改善につながるものと考えられる。

② 生徒指導

生徒指導に関しては、全ての項目の平均値が4を上回っているため、概ね高評価であると考えられる。項目4「先生は一人一人の性格や考え方を大切にし、良さを伸ばす指導をしていますか。」と項目5「先生は困ったときに親身になって対応していると思いますか。」については、どちらも昨年と比べて微減している。教師の組織的な対応を継続しつつ、今後も生徒に対する親身な対応を心がけたい。

また、項目6「あなたは、ルールやマナーを守り、学年にふさわしい規律や規範意識をもつことができますか。」について、昨年度と比べて微増している。GIGAスクール構想で一人一台端末が整備され、3学年とも入学時から端末が手元にある学校生活を送っている。本校では、ICT推進生徒委員会の取り組みが定着してきており、自分たちでふさわしい使い方を考える態度が身に付きつつある。これからもICT利用に限らず、「望ましい事例」を取り上げた良さを伸ばす指導を行っていくことを心がけていきたい。

③ 学校運営

学校運営に関しても、全ての項目の平均値が4を上回っているため、概ね高評価であると考えられる。項目7「学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。」では、昨年度と比べて微増している。昨年度末には全生徒の机が新JIS規格のものに入替になるなど、学習環境の整備が実感しやすかったのではないかと考えられる。

項目9「学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習などの特色ある活動になじんでいると思いますか。」では、昨年度と比べ全学年で微減している。コロナ禍において行事が中止ないしは規模縮小された3年間を過ごしてきた生徒には、元の規模で行われる学校行事の準備や運営が負担となっていて、「なじむ」と感じづらかったのではないかと推察される。

項目10「本校に入学して良かったと思いますか。」についても、昨年度と比べ0.06ポイント低下しているものの、依然として平均値が4.59ポイントと高評価である。様々な場面で、自分らしさを発揮し、互いに認め合う風土が醸成されてきたものと捉えられる。生徒達が自己存在感や自己肯定感を実感できるような場面づくりを今後も継続していきたい。

④ その他（前年度との比較から）

今年度も多くの項目で平均値が4.0を上回っている状況はおおむね良好であると捉えている。しかしながら、2年生では昨年度の1年次との比較において、多くの項目で平均値の低下がみられている。発達段階を考慮しつつ、個々のデータを確認し今後の指導にいかしていかなければならない。

(2) 保護者アンケート

評価基準は5・・・そう思う 4・・・ややそう思う 3・・・どちらとも言えない 2・・・あまりそう思わない 1・・・そう思わない の5段階です。

番号	評価項目	学年	評価					平均	4年度平均	増減
			5	4	3	2	1			
学習指導	1 学校の授業は、わかりやすく工夫をした、充実したものだと思いませんか。	1年生	50	51	23	4	2	4.10	4.07	0.03
		2年生	53	42	29	7	1	4.05	4.08	△ 0.02
		3年生	57	37	34	6	4	3.99	4.16	△ 0.16
		全学年	160	130	86	17	7	4.05	4.10	△ 0.05
	2 お子様は、自ら計画を立て、学校外で適切に学習ができていると思いませんか。	1年生	15	51	35	24	12	3.24	3.18	0.06
		2年生	29	31	30	32	11	3.26	3.24	0.03
		3年生	44	42	26	17	13	3.61	3.80	△ 0.19
		全学年	88	124	91	73	36	3.37	3.41	△ 0.03
	3 お子様は、積極的に意見を発表したり、自分で課題を解決したりできていると思いませんか。	1年生	28	51	28	21	8	3.51	3.53	△ 0.02
		2年生	27	41	44	13	7	3.52	3.44	0.07
		3年生	45	40	36	13	8	3.71	3.91	△ 0.20
		全学年	100	132	108	47	23	3.58	3.63	△ 0.05
生徒指導	4 教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切に、良さを伸ばす指導をしていると思いませんか。	1年生	45	54	24	8	2	3.99	3.99	△ 0.00
		2年生	45	45	30	10	2	3.92	4.02	△ 0.10
		3年生	62	53	21	3	2	4.21	4.11	0.09
		全学年	152	152	75	21	6	4.04	4.04	△ 0.00
	5 教員は生徒が困った時に親身になって対応していると思いませんか。	1年生	55	45	24	6	3	4.08	4.03	0.04
		2年生	48	45	30	8	1	3.99	4.13	△ 0.14
		3年生	65	55	17	3	2	4.25	4.23	0.02
		全学年	168	145	71	17	6	4.11	4.13	△ 0.02
	6 お子様は、ルールやマナーを守り、学年にふさわしい規律や規範意識をもつことができますか。	1年生	59	52	14	8	3	4.15	4.15	△ 0.00
		2年生	59	44	17	9	3	4.11	3.94	0.17
		3年生	72	44	19	6	1	4.27	4.37	△ 0.10
		全学年	190	140	50	23	7	4.18	4.15	0.02
学校運営	7 学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いませんか。	1年生	66	46	20	3	0	4.30	4.24	0.06
		2年生	59	49	17	6	1	4.20	4.12	0.08
		3年生	66	54	20	3	0	4.28	4.28	△ 0.00
		全学年	191	149	57	12	1	4.26	4.21	0.05
	8 学校はお子様に、将来社会に出た時に役に立つ力をつけていると思いませんか。	1年生	64	46	24	2	0	4.26	4.26	0.00
		2年生	56	51	22	4	0	4.20	4.16	0.04
		3年生	73	48	17	2	2	4.32	4.30	0.02
		全学年	193	145	63	8	2	4.26	4.24	0.02
	9 お子様は、学校の行事や生徒会活動・学級活動、校外学習など特色ある活動になじんでいると思いませんか。	1年生	66	46	17	5	2	4.24	4.38	△ 0.14
		2年生	72	45	13	2	2	4.37	4.24	0.13
		3年生	87	35	13	4	3	4.40	4.47	△ 0.07
		全学年	225	126	43	11	7	4.34	4.36	△ 0.03
10 附属中学校に入学させて良かったと思いませんか。	1年生	74	39	14	7	3	4.27	4.42	△ 0.15	
	2年生	80	31	16	4	2	4.38	4.30	0.08	
	3年生	101	25	8	5	2	4.55	4.45	0.09	
	全学年	255	95	38	16	7	4.40	4.39	0.01	
11 学校は情報公開や家庭との連絡・連携に努めていると思いませんか。	1年生	53	46	30	5	1	4.07	4.11	△ 0.03	
	2年生	58	41	25	8	1	4.11	4.13	△ 0.02	
	3年生	75	43	19	5	1	4.30	4.30	0.00	
	全学年	186	130	74	18	3	4.16	4.18	△ 0.02	
12 学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いませんか。	1年生	54	56	20	2	0	4.23	4.26	△ 0.03	
	2年生	63	40	22	6	2	4.17	4.15	0.02	
	3年生	79	38	22	3	1	4.34	4.25	0.08	
	全学年	196	134	64	11	3	4.25	4.22	0.02	

① 学習指導

項目1「学校の授業は、わかりやすく工夫をした、充実したものだと思いますか」について、平均で4を超えており、概ね順調であると思われる。一方で、昨年度から3年生を中心にわずかに減少傾向も見られる。この2年間の学習指導で増えているのは、個別最適な学びであろう。本校の全体研究と関連して、生徒が自分の個性を生かして自立して学ぶ機会を3年生を中心に意図的に増やしているため、「分かりやすく工夫した授業」の時間は減っているはずである。また、個別最適な学びの時間を捻出するために、時間短縮する授業も想定される。これらが原因となっている可能性は考えられる。個別最適な学びのメリットとデメリットを考慮しながら、それぞれの授業者が時間配分などを工夫することが必要である。

項目2「お子様は、自ら計画を立て、学校外で適切に学習ができていると思いますか」の結果は、平均で3.37と全項目で最も低い結果であり、3年生での減少傾向が見られる。一方で、経年変化を見てみると、今年度3年生の3.61は、昨年度の3.24から増加してはいるものの、個別最適な学びの一環として、全員共通の宿題を課すことが少なくなっていることが影響している可能性が考えられる。また、現実的に宿題を課すことの弊害として、宿題が終わらずに学校から遠ざかる生徒がいたり、受験期の3年生には塾などの宿題で睡眠時間を奪われている生徒がいたりすることも、宿題が減っている一因と考えられる。改善のためには、宿題を増やす方針よりも、自主的に勉強する必要感を生み出すような学習指導を充実させる必要があると考えられる。

項目3「お子様は、積極的に意見を発表したり、自分で課題を解決したりできていると思いますか」は、3年生で減少傾向が見られるが、こちらも経年変化では昨年度の3.44から3.71に増加しており、その他は例年通りの傾向と考えられる。今年度の3年生は1・2年時もこの項目での評価が低く、入学当初から他学年とは多少異なる実態があるものと考えられる。

② 生徒指導

項目4～6については、すべての項目で平均4以上であり、近年と同様の高い数値であると考えられる。これは、教員が困っている生徒に丁寧に対応していること、報告・連絡・相談が速やかに行われていることなどが影響しているものと考えられる。一方で、一部の保護者からは厳しい評価を頂いていることも事実である。個別対応や特別対応が多い中、勤務時間も限られた中ではあるが、引き続き、生徒理解に努めながら、教員間の連携を意識していくことに努め、生徒の良心に訴えかける日頃からの積極的な生徒指導（Chromebookの使い方を含める）を継続していきたい。

③ 学校運営

学校運営に関わる項目7～12については、すべての項目で平均4.16～4.40と高水準を保っていると考えられる。中でも、項目10「附属中学校に入学させて良かったと思いますか」は、今回の全12項目中の最高値4.40となり、本校の特色を理解して頂いている傾向が強いと考えられる。

一方、項目11「学校は情報公開や家庭との連絡・連携に努めていると思いますか。」については、高水準ながらも4.16にとどまっている。実際に、さくら連絡網で情報配信しても、開封されないケースも多く見られるため、改善が必要と考えられる。

(3) 教職員アンケート

評価基準は5・・・と思う 4・・・やや思う 3・・・どちらとも言えない 2・・・あまりそう思わない 1・・・そう思わない の5段階です。											
	番号	評価項目	5	4	3	2	1	平均	R4年度 平均	増減	R3年度 平均
学習指導	1	教員は熱心に工夫をして、授業をしていると思いますか。	19	10	0	0	0	4.66	4.69	△ 0.03	4.66
	2	教員は、生徒自らが計画を立て、学校外で適切に学習ができるよう指導していると思いますか。	10	10	7	1	1	3.93	4.03	△ 0.10	3.79
	3	教員は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか。	17	11	1	0	0	4.55	4.45	0.10	4.34
生徒指導	4	教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切にして指導していると思いますか。	17	9	2	0	1	4.41	4.21	0.20	4.24
	5	生徒や保護者が困ったときに、教員は親身になって対応していると思いますか。	18	5	5	0	1	4.34	4.34	0.00	4.45
	6	教員は生徒がルールやマナーを守り、規律ある生活を送れるように指導していると思いますか。	7	11	5	1	0	4.00	3.83	0.17	3.66
学校運営	7	学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか。	6	12	8	3	0	3.72	3.83	△ 0.11	3.86
	8	学校は生徒が将来、社会に出た時に役に立つ力をつけていると思いますか。	12	13	4	0	0	4.28	4.31	△ 0.03	3.86
	9	教育課程や学校行事などの教育活動、入学者選抜や学校評価などが適切に行われていると思いますか。	16	10	2	0	1	4.38	4.28	0.10	4.17
	10	安全点検や保健安全対策、防災対策、情報セキュリティ対策が着実に進められていると思いますか。	7	16	4	2	0	3.97	4.21	△ 0.24	4.00
	11	会議・打ち合わせや校務分掌、生徒指導や保護者対応などについて、校内体制が整備され、円滑に進められていると思いますか。	13	9	3	3	1	4.03	3.97	0.06	3.72
	12	学校全体や各教科、個人の教育実践研究が意欲的に進められていると思いますか。	14	11	4	0	0	4.34	4.10	0.24	4.14
	13	教育実習指導が適切に実施されていると思いますか。	17	8	3	1	0	4.41	4.21	0.20	4.14
	14	大学・学部との連携・協力や地域との連携・貢献が積極的に行われていると思いますか。	11	13	4	1	0	4.17	4.00	0.17	3.83
	15	学校は国立大学附属学校としての社会的使命を十分に果たしていると思いますか。	13	11	5	0	0	4.28	4.10	0.18	3.97

全体的にはすべての質問項目で平均値が3.7を上回っており、概ね良好なデータであると解釈できる。一方、少数ではあるものの「2：あまりそう思わない」、「1：そう思わない」と回答している職員がいることも事実である。このような職員の意見に耳を傾けることでさらなる向上が見込めると考えられる。詳細は以下の通りである。

① 学習指導

項目1「教員は熱心に工夫をして、授業をしていると思いますか」と項目3「教員は生徒が自分で課題を解決したり、意見を発表したりする授業をしていると思いますか」は、例年と同様高い数値になっており、教員が意識的に授業を工夫改善しようとしているものと考えられる。

一方、質問項目2「教員は、生徒自らが計画を立て、学校外で適切に学習ができるように指導していると思いますか」については、「1」や「2」と評価した教員が1名ずつおり、昨年度より0.10ポイント下がっている。近年、宿題として明確な課題を課す傾向が弱まっており、自分に必要な分を自分で学ぶという課題が増えている傾向があると感じられる。生徒にどのような力を身に付けさせたいのか等、教員間での共通理解を図り、放任にならないよう常に生徒の自主性を育てる指導を心がけたい。

② 生徒指導

項目4～6のどれも平均4.0を上回る結果となった。学級担任をはじめとして、個別指導・特別対応に丁寧に取り組んだ成果と考えられる。また、生徒指導に関する情報共有を、生徒指導主事を中心に密に行っていることも影響していると考えている。

他方で、これらの項目は本校勤務年数の違いに影響されることがこれまでも多くあり、今年度も、項目4「教員は生徒一人一人の性格や考え方を大切に指導していると思いますか」や、項目5「生徒や保護者が困ったときに、教員は親身になって対応していると思いますか」に対して、「1」と評価した教員も1名ずついた。逆に「5」と評価した教員は昨年度よりもどの項目でも増えていた。学習指導と同様に、教育観や指導観について教員間での共通理解を図ることを継続していきたい。

② 学校運営

項目7「学校の施設・整備や備品は安全で、よく整備されていると思いますか」について、平均3.72ポイントにとどまり、昨年度からも低下している。生徒用机やイス、ロッカーなどが近年新調されてきたプラスの面がある一方で、トイレの修繕が進まないなど財政上の問題などが原因の一つと考えられる。財政上の問題は、近年の光熱費増などの問題と直結するため、総合的な判断が必要となるであろう。

項目10「安全点検や保健安全対策、防災対策、情報セキュリティ対策が着実に進められていると思いますか」では、0.24ポイント低下しているが、これはコロナ対策が今年度より軽減されたことが影響しているのではないかと考える。一方で、教員の不審者対応訓練を夏季休業中に実施するなど、改善した面もあった。

その他の項目ではすべて平均値4.0を上回っており、望ましい傾向であると考えられる。特に、項目12～15は昨年度よりも約0.2ポイントずつ向上している。分布を見てみると、「5」と評価した教員が増えていることがその原因と考えられる。ICT部会が主催する実践交流会の実施や、研究部が推進する「個別最適な学び」の全体研究などが浸透してきたことの効果もあるのではないかと考えら得られる。また、大学採用の職員や経験年数が長い職員が増えたことから、本校の最大の特徴である研究と実習についての見識が深まった職員が増えていることも要因ではないかと考えられる。

一方で、項目9や11については、「1」と回答している職員が1名ずつ存在している。少数ではあるが、学校運営改善のためにはこういった職員の声にも耳を傾けていく必要がある。

来年度も今年度以上のさらなる改善を目指して、努力することが必要である。

4 学校評価（自己評価）の総括

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行となったため、教育活動をほぼ本来の形に戻した。文化祭ではチケット制を導入し、保護者以外の一部の方にも一般公開を行うことができた。宿泊を伴う校外学習、運動会や総合的な学習の時間「附中探Q記」の発表会の保護者への公開も昨年度と同様に行った。

GIGAスクール構想による一人一台情報端末環境を活かした教育活動も効果的に行われ、一人一台の端末が高速ネットワークで接続されている環境が存分に活用されている。体調不良で登校できない生徒が自宅からリモートで授業に参加したり、学年単位の活動等をリモートで実施したり、行事企画や意見交流等をネットワーク上で行ったりしている。2月に開催したICT実践交流会（オンライン開催）では、「実践から考える生成AIとの向き合い方」をテーマに、基調講演の他、生徒の自治的活動であるICT推進生徒委員会の実践や生徒がChatGPTを活用する授業実践を含む4つの取り組みを紹介して交流会を実施し、多くの方々に参加いただいた。なお、本校では10月に2・3年生が、保護者の同意を得てChatGPTのアカウントを取得済である。

教育実習に関しては、教育学部の中学校コースの学生の各学年段階の全ての実習を担当している。1年生の「スタート・アップ実習」、2年生の「プレ実習」、3年生の「コア実習」、4年生の「フォローアップ実習」及び一部のコースで行われる「第2実習」であり、学生を対象としたアンケートにおいて高い評価を得ている。ほかに、教育学部生の「副専攻実習」や本校卒業生の実習等、多様な教育実習を受け入れている。さらに、教育学部のインターンシップ実習にも協力している。学部1・2年生の「セレクト実習」（選択科目）、3年生の「学校インターンシップ基礎実習A」（必修科目：今年度から実習先の選択肢に加わった）であり、教育実習とは違った目で生徒や教師の仕事を観察・体験できるため、教職について多角的に考える機会を学生に提供している。

こうした状況の中、以下に示すアンケートにおいてはここ数年、全般に概ね高い評価を得られている。令和5年度においても、多くの方々のご協力を得て、本校が求められる使命を一定程度果たすことができたものと考えられる。他方、今後に向けて、いくつかの課題も見られる。

（1）学習指導

項目1に関わる、各教員が工夫をしてわかりやすく充実した授業を行うことについて、教員と生徒は同様に高い値を示している。このことは、各教員が精力的に教材研究を行うとともに、個別最適な学びを目指して研究的に授業を進めていることが高い評価を得ることにつながっているものと考えられる。保護者の評価も高いものの、生徒・教員の値よりは低い。授業参観等、学校での実際の授業を観る機会が少ないことが影響していると考えられる。項目2に関わる、生徒自らが計画を立て、学校外で適切に学習できるように指導できているかという点においては、生徒・保護者及び教員ともに評価が低い。多数の生徒が学校外の学習に適切に取り組んでいることが推察される一方で、一部の生徒については、学校外でも自主的に学習に取り組むようになる指導を工夫する必要がある。項目3に関わる、生徒が自ら課題を解決したり意見を発表したりすることができているかについては、教員の値に比べて生徒や保護者の評価が低い。本校では、生徒が自ら課題を解決したり意見を発表したりする機会を多く設けた授業を行っていることから、そうしたことができる生徒が多いが、生徒や保護者がそのことへの意識が高く、努力が必要であると自己評価しているとも捉えられる。

（2）生徒指導

生徒指導に関しては、全項目の平均値が4を上回っており、概ね高評価であると考えられる。

本校においては、生徒指導や教育相談等の課題に関して、組織的で迅速な対応がとれるよう、従前より体制を整備してきた。教育学部の教育相談を専門とする大学教員からも、毎週行われる教育相談部会において、豊富な情報と高い知見にもとづく専門的なアドバイスを受けている。本校の取り組みについては学校外の関心も高く、和洋国府台女子中学校高等学校で参考にしていただいたり、教職大学院に通う千葉県内の現職教員の会議見学を受け入れたりしている。各教員が生徒の課題に親身になって寄り添い、迅速に課題を管理職まで共有した上で組織的に対応することができている。

本校は、細かい校則を定めず、生徒の自主性を尊重した生徒指導を進めてきた。さらに、従来から重視してきた生徒の自治的活動により、生徒たちも積極的に問題の未然防止や解決に尽力している。

アンケート結果は、本校のこうした姿勢が、生徒や保護者、教職員からも概ね支持されていることを示している。ただし、生徒からも保護者からも少数とは言え否定的な回答があること、さらには教員からも否定的な回答があることを踏まえ、今後も改善を図っていくことが求められる。

(3) 学校運営

学校運営に関しては、全ての項目において、生徒の平均値が4.25以上、保護者の平均値が4.16以上となっており、高い水準を示している。教員の評価も概ね高評価といえる。

項目7に関わる、学校の施設・設備や備品は安全で、よく整備されているかについては、昨年度末に全生徒の机を新JIS規格のものに入れ替え、さらに従来活用していた拡張板を装着して広い机で学習できるようになっている。一方で、トイレの修繕が進まない、予定されていたエレベーターの設置が遅れている、グラウンドのスプリンクラーの修理の見通しが立たない、といった財政上の問題を抱えている。

項目8に関わる、学校は自分が将来社会に出た時に役立つ力をつけているか、については、全教育活動にわたって、他を思いやり主体的に考えることを重視して行動させていることに理解を得られていると考えられる。総合的な学習の時間等で、外部講師を呼んで授業を行ってもらうなど、身近に実社会を意識させる機会を設けている点も評価されているといえよう。

項目9に関わる、学校行事や特色ある活動になじんでいるかについては、生徒・保護者ともに1年生が前年度に比較して低い。生徒の実情を把握し、学年で丁寧かつきめ細やかな対応を行っているところであるが、今後も引き続き継続が必要である。

本校においては、教員の「働き方改革」を強力に推進しており、参考となる好事例として県教育長のヒアリングを受けている。そうした限られた勤務時間の中で、生徒指導・教育相談体制を充実させ、大学と連携した教育・研究等を進めていくかが今後課題となってくる。項目11に関して、校内体制について否定的な回答が見られていることから、今後も校内体制については教職員の意見をよく聞き、よく協議し、状況に合わせて改善を図ることが必要である。

今後も、大学や学部、他附属との連携をはかり、全国の国立大学附属学校と協議しながら、先進的かつ適正な学校運営に取り組んでいきたい。

国立大学教員養成課程に求められている地域連携・社会貢献については次の表の通りである。新型コロナウイルスの影響で制限されていた活動も緩和され、教員対象とした研修会講師が増えるなど、全体の件数は例年並に戻ってきた。特に本年度は教育行政の委員や研究協力の件数が増えた。今後も様々な形で地域に貢献できるよう、積極的にはたらきかけていきたい。

	活動の内容	令和5年度 合計	昨年度 合計
1	学習指導	2	4
2	①学生スクール サポーターの活 用	0	0
3		1	1
4		1	4
5	②研修指導講師 各種役員等	25	19
6		1	2
7		0	0
8		1	0
9		13	4
10		14	10
11		1	2
12		2	3
13		8	14
14		6	7
15	③外部資金の獲 得・受賞	0	1
16		0	1
17	④研究発表	7	10
18		4	8
19		13	7
20	教育学部連携研 究への参加	20	27